

■主な調査対象と回答数
(1) 松木中学校教職員 回答数 19
(2) 松木中学校生徒 回答数 302
(3) 松木中学校保護者 回答数
※地域については回答数が1であったため、今回は不掲載

(1) 豊かな人間性と社会性の育成

(令和8年度の指標)

- ①自己有用感：80%
- ②小中合同活動への参加態度：75%
- ③地域・社会への貢献意識：85%
- ④多様性の尊重意識：95%

(重点1) 日々の学校生活での自治的活動で育てる

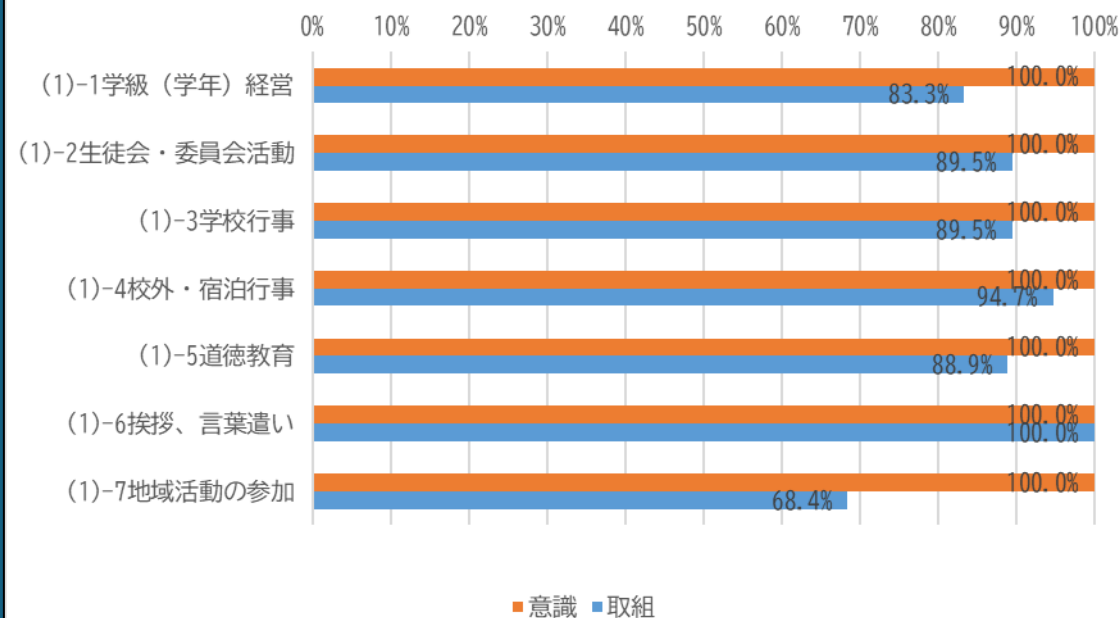
- ①生徒の意見を反映した委員会・学校行事・学級経営の推進
- ②自己の役割を自覚し主体的に活動し責任を果たす委員会・学級活動

(重点2) 地域から学び、地域の活動への参加で育てる

- ①小学校、地域行事・地域活動へのボランティア参加の促進
- ②学校運営や地域行事への参画による自己の生き方につながる学びの促進

調査結果

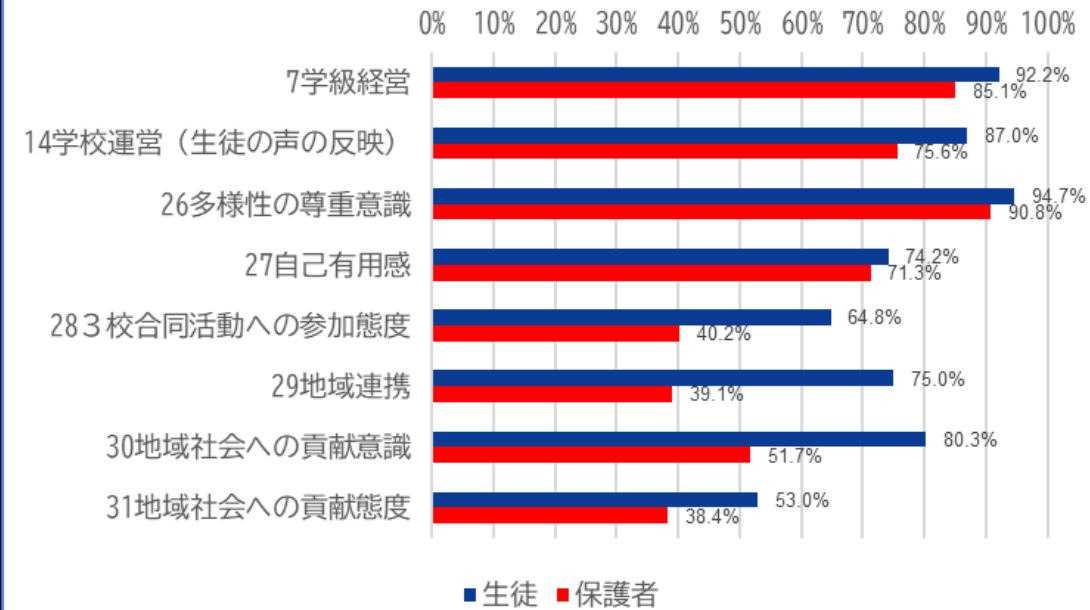
(1) 豊かな人間性と社会性の育成（教職員）



昨年度の調査結果

項番	項目	R7②	R7①
(1)-1	意識	100.0%	95.2%
	取組	70.0%	76.2%
(1)-2	意識	100.0%	95.2%
	取組	70.0%	71.4%
(1)-3	意識	100.0%	90.5%
	取組	68.4%	66.7%
(1)-4	意識	100.0%	95.2%
	取組	85.0%	76.2%
(1)-5	意識	100.0%	90.5%
	取組	75.0%	57.1%
(1)-6	意識	100.0%	100.0%
	取組	70.0%	71.4%
(1)-7	意識	100.0%	100.0%
	取組	60.0%	55.0%

(1) 豊かな人間性と社会性の育成（生徒・保護者）



昨年度の調査結果

項番	項目	R7②	R7①
7	生徒	93.4%	90.1%
	保護者	86.6%	85.7%
14	生徒	89.6%	88.8%
	保護者	72.3%	77.6%
26	生徒	95.3%	93.0%
	保護者	88.3%	89.7%
27	生徒	73.5%	68.2%
	保護者	66.7%	65.9%
28	生徒	59.9%	57.3%
	保護者	42.3%	35.5%
29	生徒	84.4%	80.4%
	保護者	43.2%	42.1%
30	生徒	80.8%	79.6%
	保護者	47.3%	45.6%
31	生徒	51.7%	50.0%
	保護者	28.8%	23.8%

【指標達成率】

- ①自己有用感：74.2/80=92.7% ②小中合同活動への参加態度：64.8/75=86.4%
- ③地域・社会への貢献意識：80.3/85=94.5% ④多様性の尊重意識：94.7/95=99.7%

【○成果 ●課題➡改善の方向性】

○経営計画の周知が概ね図られており、生徒の声を活動に反映させることが浸透している。

○行動指針である「和」が特に浸透しており、多様性を尊重する意識が高い。

●生徒の自己有用感を高めるための取組を推進する必要がある。 ➡自己有用感は他者からの肯定的な評価により育まれるため、平素の活動や学校行事等における役割を果たした後、相互に頑張りを認め合う活動を取り入れていく。

●小中連携、地域社会の貢献意識や態度について、保護者評価が低い傾向にあり、引き続きの課題となる。 ➡小中一貫教育としての取組である「浄瑠璃祭り」を題材としたキャリア教育を体系化し、適宜情報発信に努める。併せて小中の児童・生徒間交流のより効果的なあり方を検討する。

【学校運営協議会からの指摘事項等】

■生徒の指標の達成率から見ると、どれも高く、教職員の皆様の努力を評価したい。

■地域活動の参加の項目で、教職員の意識は非常に高いが、取組みが68.4%と低くなっている。行事の実施に向けた、生徒への支援や指導など地域行事を側面から支えることも「参加」することであるという認識をもつことも必要と考える。3月には浄瑠璃祭りがキャリア教育の中心として実施される。参加の認識が増えることを期待している。

■生徒の自己有用感については、一定の生徒が実感を持っている一方、目標には届いていない。他者を尊重する意識はとても高いが、自分が誰かの役に立っているという感覚に必ずしも結びついていない可能性があり、その要因を考察する必要がある。日常の小さな貢献にも目を向け、自分の行動が誰かの役に立っていると実感できるような対応が、学校だけでなく家庭でも大切ではないか。

(2) 学力の向上

(令和8年度の指標)

- ①市学力調査(思考・表現・判断)平均正答率 国語 80 以上 数学 70 以上
- ②市学力調査(基礎)正答率目標値以上の割合 90%
- ③話し合い活動・ペアワーク等の取組態度(生徒アンケート) 80%
- ④話し合い活動・発表等の実施頻度(授業時数の3割)(教員アンケート) 90%

(重点1) 思考力・判断力・表現力を高める授業を行う

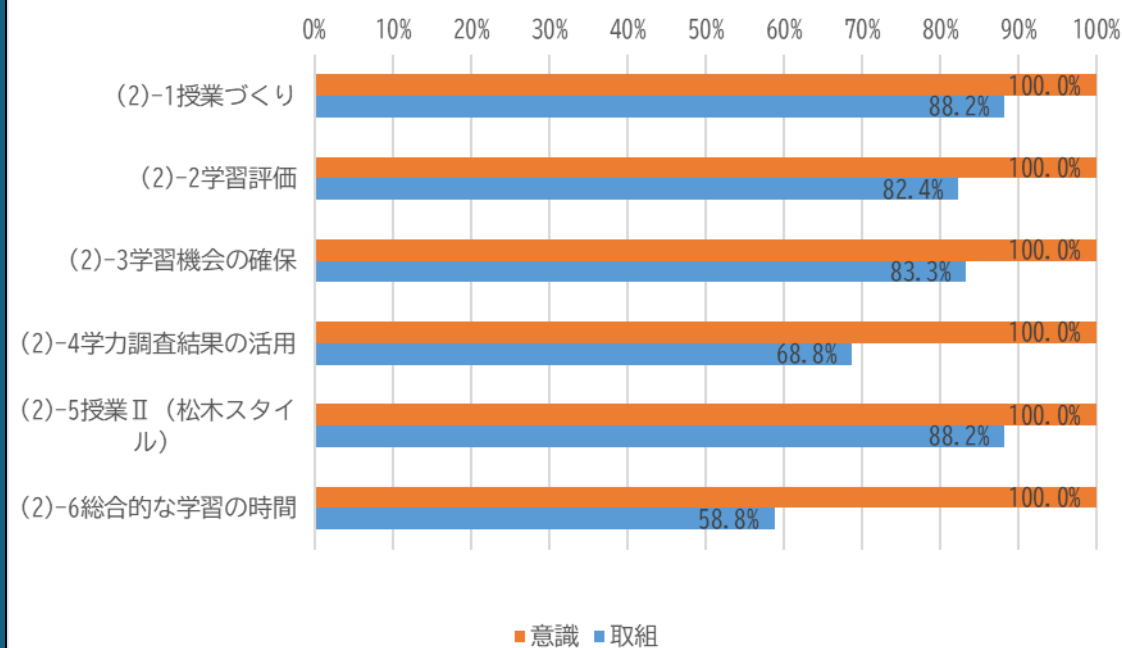
- ①話し合い・グループ活動など、生徒主体の学習活動の推進
 - ②プレゼンテーション量の質を高める発表活動の実施
- (重点2) 社会や生活につながる学びを創造する
- ①教科間で内容や活動、教員がコラボした授業の実施
 - ②異学年での学習や活動、生徒や教員がコラボした授業の実施

【主な取組と実施状況】

- (●:管理職 ○:教職員 ◎:生徒 □:学運協または協働本部)
- 当初申告で経営計画の重点事項に対する取組の申告を指示、授業観察の観点を提示
 - 校長通信「Output～校長室から～」を発行し、授業改善の実践を価値付け、周知
 - 評価・評定について保護者会にて説明会を実施(4/18)
 - 英語で2年生が1年生に向け発表する等、コラボ(学年・教科)授業の実施
 - Outputをキーワードにした生徒の主体的な学びの推進
 - Outputの充実のため、ミライシードの活用研修を実施(7/15)

調査結果

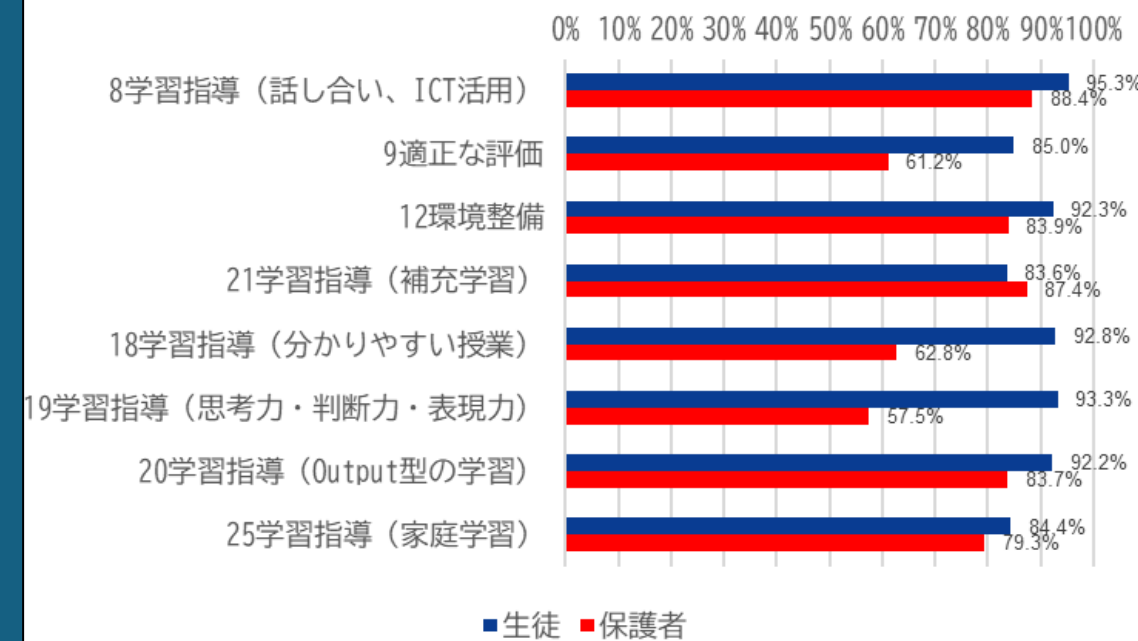
(2) 学力の向上(教職員)



昨年度の調査結果

項番	項目	R7②	R7①
(2)-1	意識	90.0%	90.5%
	取組	80.0%	76.2%
(2)-2	意識	95.0%	90.5%
	取組	70.0%	61.9%
(2)-3	意識	90.0%	95.2%
	取組	70.0%	57.1%
(2)-4	意識	85.0%	85.7%
	取組	20.0%	28.6%
(2)-5	意識	90.0%	90.5%
	取組	60.0%	47.6%
(2)-6	意識	90.0%	90.5%
	取組	60.0%	61.9%

(2) 学力の向上(生徒・保護者)



昨年度の調査結果

項番	項目	R7②	R7①
8	生徒	95.6%	95.6%
	保護者	84.8%	92.8%
9	生徒	89.6%	86.8%
	保護者	71.2%	66.7%
12	生徒	93.4%	94.4%
	保護者	83.9%	84.9%
21	生徒	86.0%	86.3%
	保護者	76.8%	77.8%
18	生徒	95.9%	94.4%
	保護者	62.2%	69.4%
19	生徒	94.2%	92.7%
	保護者	69.6%	71.4%
20	生徒	94.0%	90.6%
	保護者	88.3%	83.3%
25	生徒	79.5%	75.1%
	保護者	69.4%	77.0%

【指標達成率】

- ①市学力調査(思考・表現・判断)平均正答率:国語 80 以上(1年:62.4/80=78%、2年:72.7/80=90.9%、3年:68.1/80=85.1%)
数学 70 以上(1年:31/70=44.3%、2年:56.4/70=80.6%、3年:57.5/70=82.1%)
- ②市学力調査(基礎)正答率目標値以上の割合 90%:国語(1年:78.5/90=87.2%、2年:86.2/90=95.8%、3年:71.6/90=79.6%)
数学(1年:84.2/90=93.6%、2年:85.3/90=94.8%、3年:81.5/90=90.6%)
- ③話し合い活動・ペアワーク等の取組態度(生徒アンケート):92.2/80=115.2%
- ④話し合い活動・発表等の実施頻度(授業時数の3割)(教員アンケート):88.2/90=98% 実施率=40.5% 40.5/30=135% ※(2)学力の向上の別紙参照

【○成果 ●課題➡改善の方向性】 ※(2)学力の向上の別紙参照

○Output型の授業に係る生徒の授業評価では、概ね肯定的な回答が多い。また、Output型の学習の効果を感じている生徒が全学年75%を超え、全体でも80%となっている。

○生徒アンケート結果では、学力に係る重点項目に対して概ね90%を超える肯定的な回答を得ている。※(2)学力の向上の別紙参照

●保護者及び生徒アンケート結果から、適正な評価について、肯定的な評価が低下している。 ➡校内研修や日々の授業改善の中で指導と評価の一体化を図るとともに、都度、評価に関する確実な説明を行う。

●学習者主体の授業を推進するためにも、Output型の授業の質を向上させる必要がある。 ➡「生徒に委ねる」時間を創出するとともに、探究的に学習する単元構成を検討していく。また、学習者用端末やミライシードをより効果的に活用できるようにする。

【学校運営協議会からの指摘事項等】

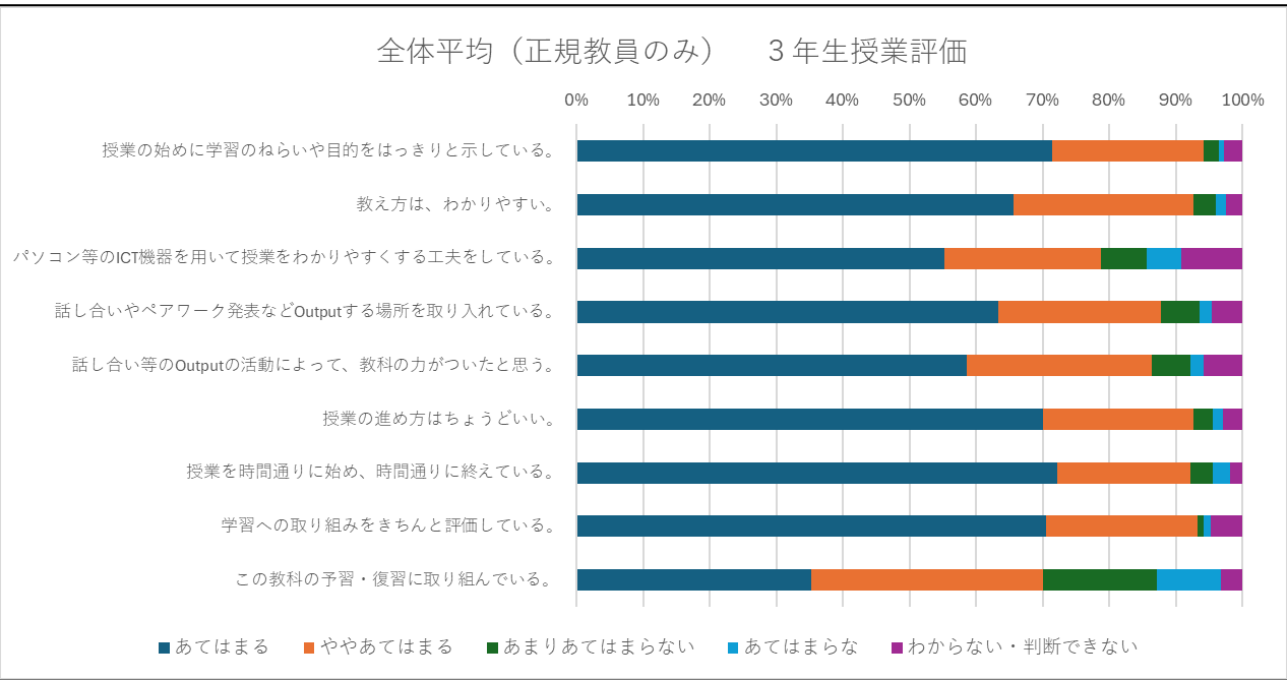
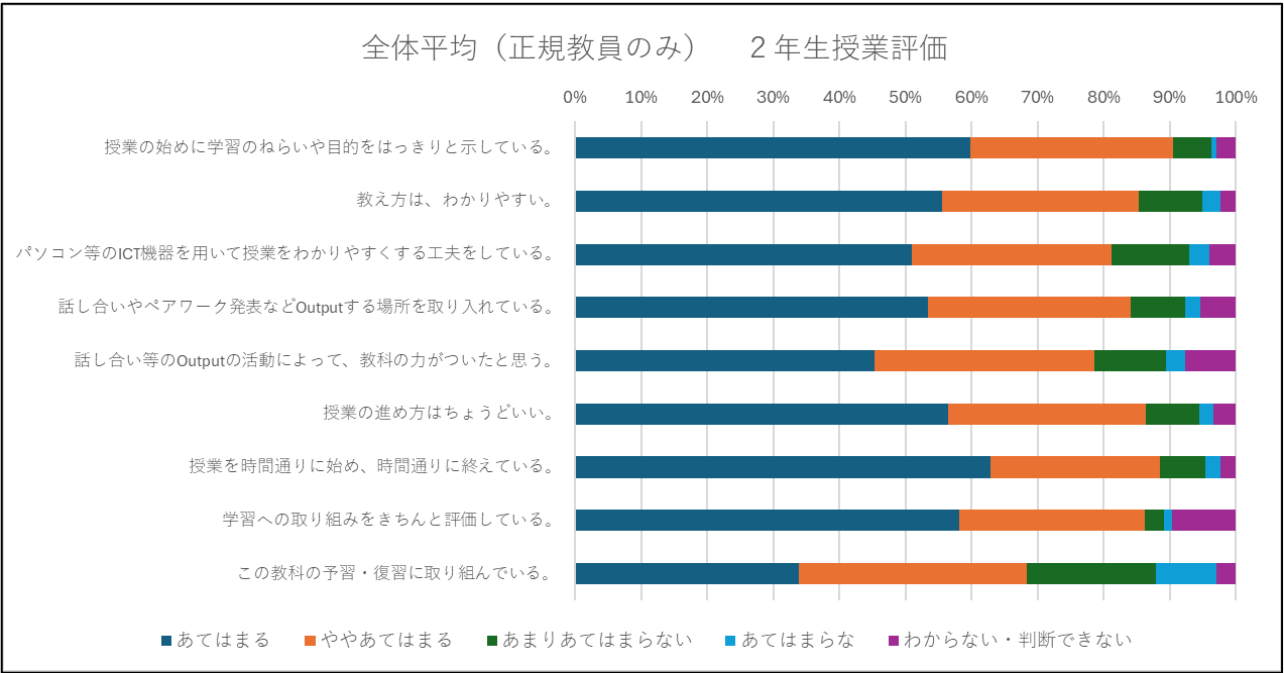
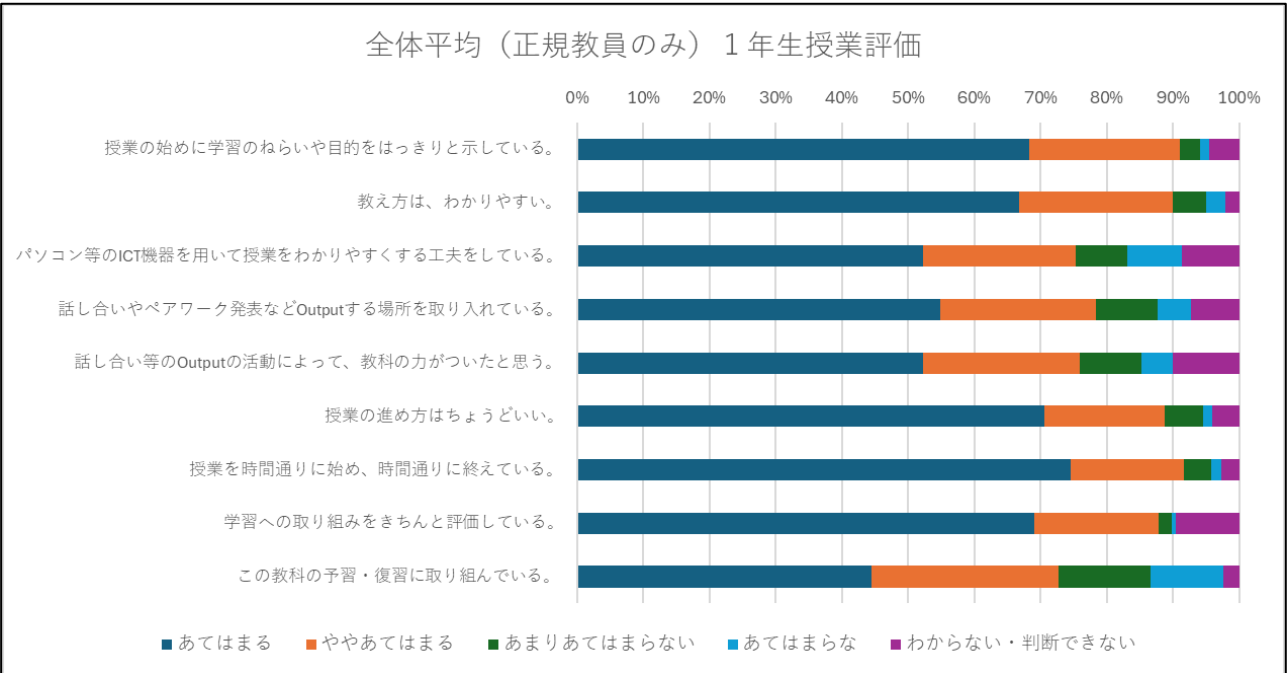
■Output型授業実施率が2学年だけ低く残念であるが、特定の教科での実施率が低いことや2年生のその他の割合が低いことも、教員がペアワーク等をOutput型ととらえていないことによるのではないだろうか。

■教職員に対して評価結果の内容について説明や紹介をしていくことで、学校経営に対しての参画意識を職員一人一人に持ってもらうことにつながるのではないかと考える。

■生徒の学びとなるOutputは授業の中だけではない。例えば、生徒会の企画である「テスト前の勉強室」。生徒同士で教えあう機会を生徒自身が創出している、とても良いOutputだと考える。このような取り組みを増やしていくことが、より良い「Output型授業」への種まきになるのではないだろうか。

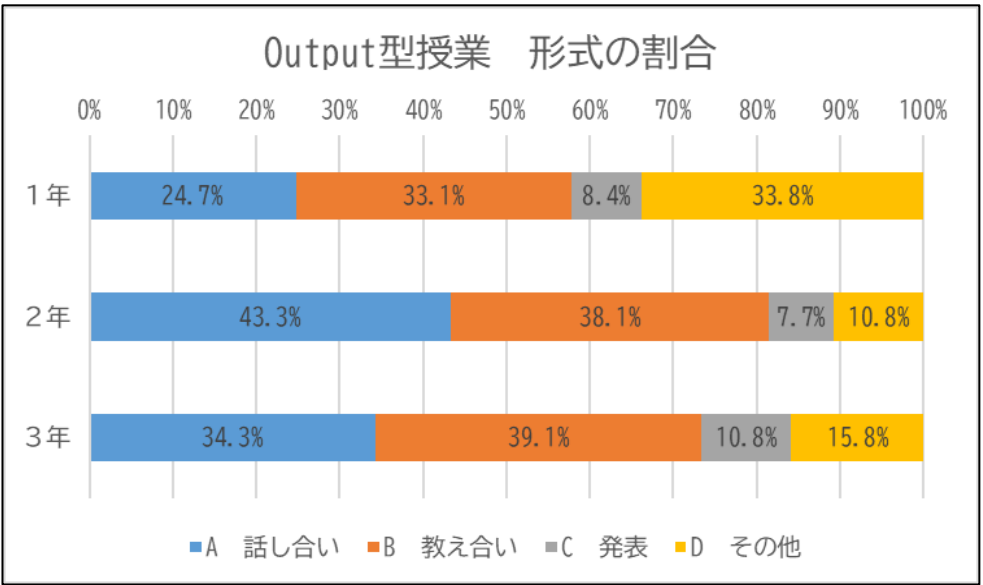
(2) 学力の向上の別紙

■生徒による授業評価アンケート（第1回）の結果



Output型授業実施率

学年	実施率
1年	43.6%
2年	34.1%
3年	46.3%
全体	40.5%



Output型授業 形式別実施回数（1授業に複数形式実施有）

	A 話し合い	B 教え合い	C 発表	D その他
1年	139	186	47	190
2年	168	148	30	42
3年	197	225	62	91

前頁の一部再掲

【指標達成率】

④話し合い活動・発表等の実施頻度（授業時数の3割）実施率＝40.5% 40.5/30＝135%

【○成果 ●課題➡改善の方向性】

○Output型の授業に係る生徒の授業評価では、概ね肯定的な回答が多い。また、Output型の学習の効果を感じている生徒が全学年75%を超え、全体でも80%となっている。

(3) 一人ひとりの可能性を拓く支援体制の充実

(令和8年度の指標)

- ①学校満足度 生徒：95% 保護者：90%
- ②相談機会への満足度 生徒：95% 保護者：90%
- ③学校に思うように登校できない生徒への支援の実施率 100%

(重点1) 相談機会の多様化を進める

- ①学習、生活、いじめや不登校等、生徒の課題や悩みに即した相談機会づくり

- ②個々の特性や課題に即した生徒支援の組織的な推進

(重点2) 体験的な活動を生徒のキャリア形成につなげる

- ①体験活動のねらいにキャリア形成を位置付け系統的に実施
- ②社会とつながる学び及び生活に活かせる学びと体験活動の推進

【主な取組と実施状況】

(●：管理職 ○：教職員 ◎：生徒 □：学運協または協働本部)

●職員会議でQ-U検査の結果の共有及び学年による分析を指示

●はちびバ松が谷との連携

●「こもれび」教室に別室指導支援員を配置

○「こもれび」教室に卓球台やソファ等を整備し、過ごしやすい環境づくりを推進

○アレルギー事故に係る初動対応のロールプレイングの実施(4/7)

○校内委員会兼登校支援委員会(毎週火曜日1校時)の実施

○いじめ防止対策委員会(毎週金曜日6校時)の実施

○いじめ防止プログラムの実施(6/4)

○朝の時間を利用して「みなさわtime(自己の特性の理解)」を実施(1年全生徒)

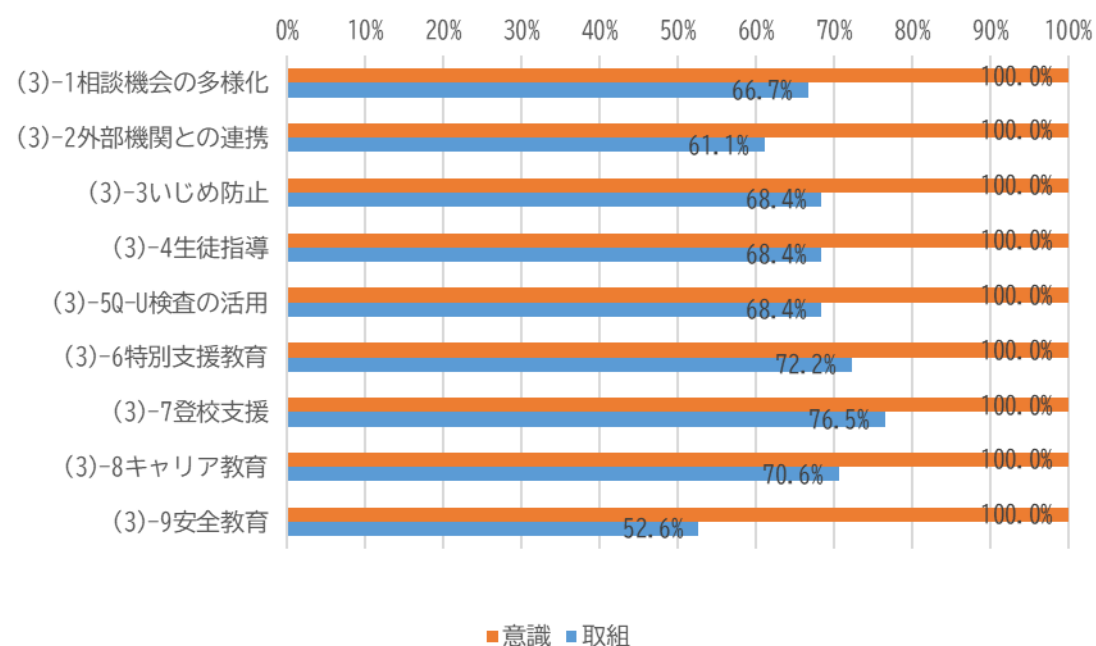
※特別支援教室「みなさわ」の教員による講話

□全生徒の居場所として放課後カフェ「なないろ」の開催(1学期：4回)

□悩みを抱える保護者の交流会「みどりの会」の実施(1学期：3回)

調査結果

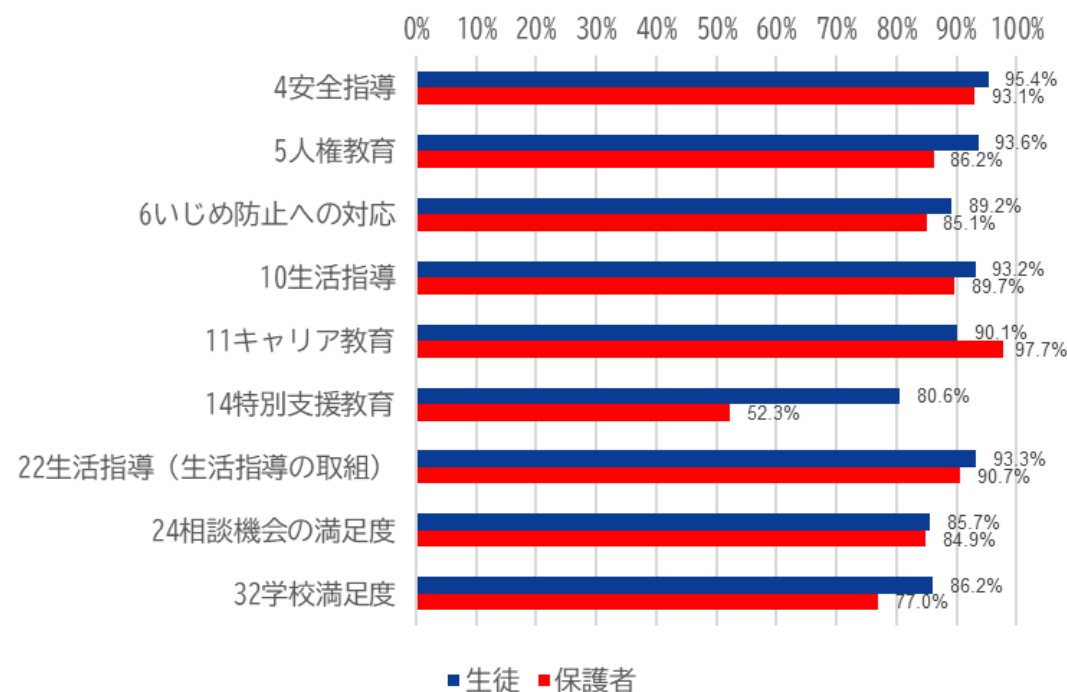
(3) 一人ひとりの可能性を拓く支援体制の充実(教職員)



昨年度の調査結果

項番	項目	R7②	R7①
(3)-1	意識	95.0%	95.2%
	取組	60.0%	61.9%
(3)-2	意識	80.0%	90.5%
	取組	45.0%	47.6%
(3)-3	意識	100.0%	100.0%
	取組	65.0%	61.9%
(3)-4	意識	100.0%	100.0%
	取組	65.0%	66.7%
(3)-5	意識	90.0%	81.0%
	取組	30.0%	28.6%
(3)-6	意識	84.2%	81.0%
	取組	42.1%	42.9%
(3)-7	意識	75.0%	85.0%
	取組	45.0%	50.0%
(3)-8	意識	90.0%	85.7%
	取組	60.0%	47.6%
(3)-9	意識	100.0%	95.2%
	取組	55.0%	42.9%

(3) 一人ひとりの可能性を拓く支援体制の充実(生徒・保護者)



昨年度の調査結果

項番	項目	R7②	R7①
4	生徒	97.8%	94.7%
	保護者	98.2%	94.4%
5	生徒	93.3%	91.8%
	保護者	90.2%	88.1%
6	生徒	90.2%	90.1%
	保護者	79.5%	81.6%
10	生徒	95.3%	94.1%
	保護者	91.8%	92.1%
11	生徒	90.8%	89.7%
	保護者	94.6%	98.4%
14	生徒	79.3%	76.1%
	保護者	49.1%	45.6%
22	生徒	95.2%	93.9%
	保護者	83.8%	86.4%
24	生徒	85.8%	86.5%
	保護者	83.9%	73.8%
32	生徒	91.8%	88.3%
	保護者	87.4%	83.3%

【指標達成率】

- ①学校満足度 生徒：86.2/95=90.7% 保護者：77/90=85.6%
- ②相談機会への満足度 生徒：93.3/95=98.2% 保護者：84.9/90=94.3%
- ③学校に思うように登校できない生徒への支援の実施率 100% (全生徒に実施中)

【○成果 ●課題➡改善の方向性】

○Q-U検査の結果の活用に係る教職員の取組が30%→68.4%に上昇した。

○生徒・保護者アンケートにおいても、一部の項目を除いて概ね肯定的な回答となっている。

○「こもれび」における別室指導の利用者が増加し、居場所を一定程度提供できている。

●保護者及び生徒アンケート結果から、学校満足度の指標達成率が低下している。 ➡「一人ひとりの可能性を拓く支援体制の充実」という枠組みだけでなく、授業改善を推進すること、生徒の声を活動に反映すること等と併せて一体的な改善を図り、生徒一人ひとりの居場所づくりを行う。

●教員のいじめ防止の取組指標が68.4%に留まっている。 ➡引き続き、いじめ対策委員会を核とした組織的な対応を講ずる。いじめ防止と同様、いじめ見逃し0を掲げ、生徒理解の徹底の基、日頃の観察、アンケート調査の確実な実施、相談しやすい環境づくりを推進する。

【学校運営協議会からの指摘事項等】

■学校満足度が昨年と比べて下がっている。(5)で部活動指導の数字も下がり、部活の地域移行措置にともなうものと考えられる。ただ、八王子市の方針に従っており、近くの学校との連携などできる限りの対応はしている。過渡期であるためだと思われるが、この改革をぜひ前向きにとらえて、部活に限らず、生徒が「好き」を見つけてそれを伸ばすことに、大人が力を合わせて知恵を絞りたい。

■学校に思うように登校できない生徒への支援の実施率100%は、素晴らしい。その上で、何が課題かの検討がされると良いと思う。

■特別支援教育については、保護者の肯定的評価が高くないが、41.8%がわからないと答えている。ユニバーサルデザインなど通常の生徒にも関わる教育であることの、なお一層の情報発信が必要と考える。

(4) 中学校区3校（松木中、松木小、長池小）の教育活動の一体的な推進

（令和8年度の指標）

①小中一貫教育への教職員の意識 100%

（取組）中学校区三校が一体的に教育活動を進める

- ①中学校区3校の教職員及び児童・生徒の協働活動（授業・学校行事等）の実施
- ②中学校区3校連絡会を核とした組織的な運営の実現
- ③小中一貫教育の日の取組として、出前授業や教職員・児童・生徒の交流等の実施

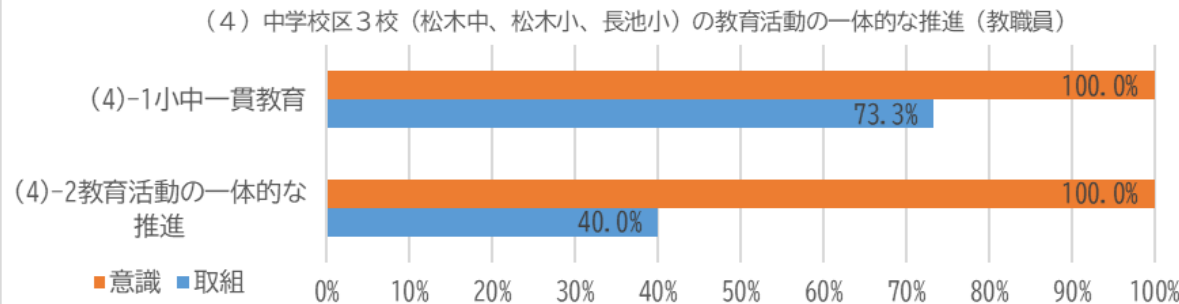
【主な取組と実施状況】

- （●：管理職 ○：教職員 ◎：生徒 □：学運協または協働本部）
- 学校 HP を活用した学校情報の発信（7 月末現在アクセス数 24,371 回）
- 3 校合同引き渡し訓練（5/1）に実施
- ◎長池小運動会（5/23）に1～3年の生徒30名以上が運営ボランティアで参加
- ◎はちおうじっ子サミットに向けて児童会と生徒会で活動（6/30）
- ◎小・中合同あいさつ運動（8/27～28）の実施
- 浄瑠璃祭りにおける1年生の出店企画関与（9年間のキャリア教育）再掲

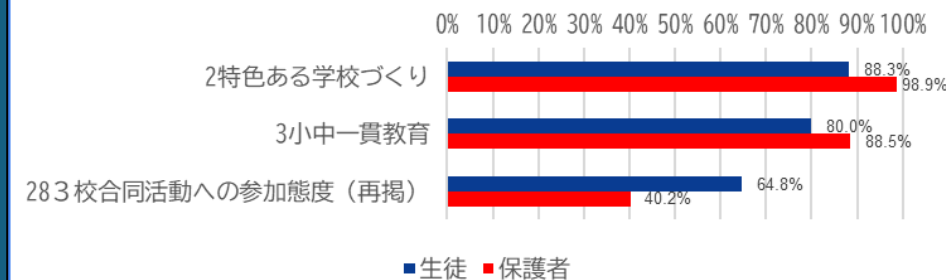
調査結果

昨年度の調査結果

項番	項目	R7②	R7①
(4)-1	意識	94.7%	90.5%
	取組	52.6%	47.6%
(4)-2	意識	80.0%	76.2%
	取組	50.0%	19.0%



(4) 中学校区3校の教育活動の一体的な推進（生徒・保護者）



昨年度の調査結果

項番	項目	R7②	R7①
2	生徒	93.1%	88.0%
	保護者	95.5%	99.2%
3	生徒	78.2%	74.6%
	保護者	88.4%	84.9%
28	生徒	59.9%	57.3%
	保護者	42.3%	35.5%

【指標達成率】

①小中一貫教育への教職員の意識 100/100=100%

【○成果 ●課題➡改善の方向性】

○中学校区3校（松木中、松木小、長池小）の教育活動の一体的な推進について、概ね周知が行き届いている。

●小中一貫教育への教職員の意識は十分であるが、取組状況との差が大きい。 ➡年度末までに計画しているものを着実に遂行できるようにする。

【学校運営協議会からの指摘事項等】

■小中一貫教育について、生徒も教員も昨年より上がっているが、目標には届いていない。情報発信の充実に加え、生徒が積極的に参加したいと思える内容になっているか、参加しやすい環境が整っているかについても検討が必要ではないか。

(5) その他

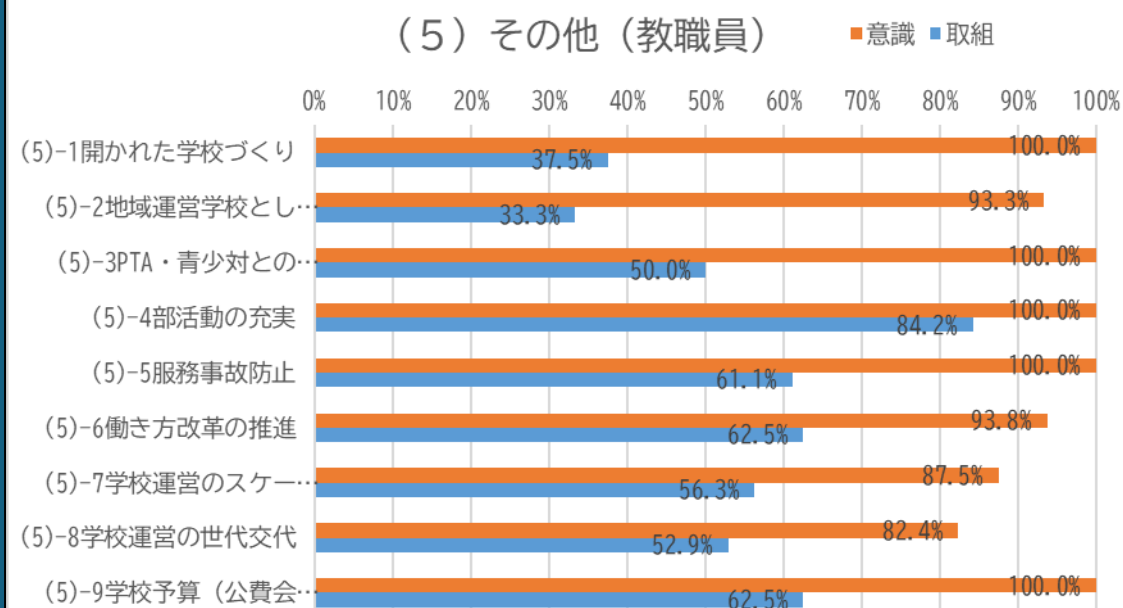
調査結果

昨年度の調査結果

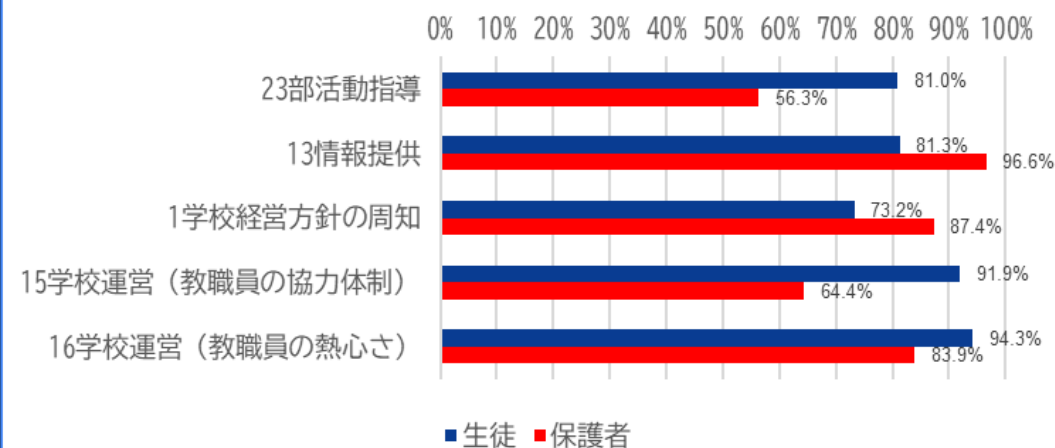
項番	項目	R7②	R7①
(5)-1	意識	89.5%	85.7%
	取組	21.0%	23.8%
(5)-2	意識	80.0%	76.2%
	取組	10.0%	9.5%
(5)-3	意識	90.0%	85.7%
	取組	40.0%	28.6%
(5)-4	意識	90.0%	85.7%
	取組	60.0%	52.4%
(5)-5	意識	100.0%	100.0%
	取組	55.0%	61.9%
(5)-6	意識	85.0%	85.7%
	取組	55.0%	42.9%
(5)-7	意識	90.0%	90.5%
	取組	35.0%	38.1%
(5)-8	意識	95.0%	85.7%
	取組	35.0%	38.1%
(5)-9	意識	80.0%	65.0%
	取組	40.0%	40.0%

（令和8年度の指標及び達成率）

- (1)開かれた学校づくり：（指標）学校ホームページや学校公開等による情報提供への満足度 100%→96.6/100=96.6%
- (2)地域運営学校としての学校運営の充実：（指標）地域運営学校としての学校運営の充実：教職員 90%→93.3/90=103.7%
- (3)PTA・青少対との連携・協力：（指標）PTAや青少対が行う活動への生徒・教職員の参加状況を高める
- (4)部活動の充実：（指標）生徒の部活動指導満足度：90%→81/90=90%
- (5)服務事故防止：（指標）教職員の服務事故防止意識：100%→100/100=100%、服務事故ゼロ=0件
- (6)働き方改革の推進：（指標）時間外勤務時間の月平均：45時間以内、時間外勤務時間80時間超：0名 →延べ5名



(5) その他



昨年度の調査結果

項番	項目	R7②	R7①
23	生徒	88.0%	88.0%
	保護者	55.2%	68.0%
13	生徒	87.9%	81.3%
	保護者	97.3%	95.2%
1	生徒	73.8%	65.5%
	保護者	93.8%	81.0%
15	生徒	94.6%	91.8%
	保護者	67.9%	69.0%
16	生徒	95.9%	94.4%
	保護者	85.6%	84.0%

【○成果 ●課題➡改善の方向性】

○教職員の取組状況は全体的に改善傾向にある。

●生徒の部活動の満足度が低下している。

➡新設の総合スポーツ部の活動を充実させる。

【学校運営協議会からの指摘事項等】

■教員の意識は高いのに、取り組みとの乖離が見られる。ただ開かれた学校づくりや地域運営学校、PTAに関しては昨年より上がってきていることは嬉しい変化である。（2）と同様に、教職員に対して評価結果の内容について説明をしていくことが必要であるが、なぜそのように考えるのか、取り組みができていないと回答した教員に理由を聞いてみることも必要ではないか。そうすることが、今後の学校経営に生かしていくことにつながると考える。

全体を通しての
学校運営協議会からの
指摘事項等

■学校の取り組みが着実に成果を出していると評価したい。

■今回指摘事項の中で、様々な改善を提案しているが、働き方改革の項目で、時間外勤務80時間超がまだ5名あるという状況からも、教員の数が減っていることから、優先順位や濃淡を付けて進めることも重要だと考えている。特に、管理職には重点的に取り組む課題を明確にして、無理のないよう計画的に改善をマネジメントしていただきたい。

■学校運営協議会としても、地域との連携や活動の支援など学校の負担軽減と教育活動の充実につながるよう、一層協力していきたい。